

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある場合は、句読点や記号も字数に数えます。)

信頼とは安全の積み重ね

人々は自然の中で生きているが、実際のところ、衣食住など、身の回りにあるもののほとんどは人工の生産品であり、それらの品々すべてが、安全を意識して作られている。A、今の安全な社会が成り立っている。B、まだまだ不備は多々あり、ときどき事故が起こっているけれど、問題が見つかることに反省し、議論し、改善されてきた。昔に比べれば、格段に住みやすくなっていることは確実であり、こうした安全な社会の基本となっているものが、万が一のことを想定して考えられたシステムである。そして、このような安全を維持していくことで「信頼性」というものが生まれてくる。信頼できるから、安心できるのだ。ひとたびトラブルが起こり、安全が脅かされると、信頼性が失われることになり、大勢が不安を抱く結果となる。安全を連続的に実現するという積み重ねによってしか、信頼は生まれない。安心①というのは、なかなか得難いものだといえる。

さて、ここまで述べてきたように、人間の賢さ②というのは、悪い事態になったときのことを想定する能力であり、②いくなれば「悲観力」のようなものに支えられているのが、現代社会だといっても過言ではない。

人間は機械よりも不安定

機械のトラブルだけではない。人間自身が間違いを犯すことも非常に多い。機械以上に人間は間違えるものである。というよりも、人間が間違いばかりするから、機械が発明され、人間をカバーしているのが本当のところだ。

社会は、人間の意思によって動いているわけだから、人間が間違えば、つまり社会、あるいは国家が間違いを犯す。戦争をしたり、搾取をしたり、あるいは虐待・差別をしたり、といった悪い事態は、歴史を遡ればいくらでも見つけることができる。同じ過ちを繰り返すことも少なくなかった。機械の設計のようなフェールセーフが、人間の社会には不足していたのかもしれない。こういった反省から、民主主義や立憲政治などが生まれたともいえるだろう。

「これは戦争につながるものではないか」と疑う、「こういったことは差別を助長しかねない」と心配する。マスコミなどは、そういった兆候を見逃さず、③「警鐘を鳴らす」ことが使命といえる。「ちょっと心配のしすぎではないのか」と思えることも多いけれど、しかし、基本的に「悲観」することが、重大な過ちを繰り返さないための歯止めとなる、という考えに基づいているのだろう。

平和が楽観を増長させた

そのおかげなのかどうかはわからないが、少なくとも、僕が生まれてから今までの日本は平和だった。大きなトラブルもなく、日本は成長を遂げた。しかし、この頃の傾向として、④「日本はこんなに素晴らしい」という「楽観」が多く観察されるようになってきた、と僕は感じている。

僕が子供の頃には、「日本はここが駄目だ」という論調のものがほとんどだった。事実、日本は大失敗をしたあと、どん底から這い上がるうとしていた時代であり、諸外国に学ぶべきものが沢山あったのだろう。遅れを取り戻そうという気運は、明治維新以後の日本の基本的な方向性でもあった。

そんな劣等感が、平和な期間が続いて、しだいに薄れたのかもしれない。経済的にも、日本は多くの先進

国に追いつき、追い越した。押しも押されもしない大国になったようだ。だから、ある程度は「自信」のよ  
うなものを持つのも自然といえる。「プライド」も持つべきだろう、とも思う。

けれども、忘れてはいけないものは、やはり過剰な「Ⅰ」で、状況を見誤らないことだ。あくまで  
も、現状や未来を「Ⅱ」「Ⅰ」して、数々の対策を早めに講じておくこと、安全側のシステムを充分に吟味  
して構築しておくこと、その姿勢が大切だと思われる。

### 自分を信じるという楽観

この頃の子育てでは、「叱らない」「褒めて育てる」というスタイルが主流になっているそうだ。それは悪  
くない。ゆつたりとした余裕のある人間に育つだろう。けれども、人生において自身の進む道を切り開いて  
いくときには、自信や期待だけでは進めない事態に陥ることが多いはずだ。むしろ、そんなトラブルばかり  
だといっても良いほどである。

そして、険しい道を突破し、成功を掴んだ人たちの話を聞くと、さまざまな障害に対して、頭を捻って  
工夫をし、人が気づかないような細かい部分に着目して問題を解決している。たしかに、多くの方は「不屈  
の精神」のような言葉を使うのだが、しかし、不屈の精神を何に向けるのか、という点が大事なポイントで  
はないだろうか。単に「絶対に上手くいくはずだ」と願っているだけでは、障害は取り除けない。戦略を立て  
て、緻密に計画し、さまざまな場面を想定して、あらかじめ手を打っておく。そういった用意周到な誠実  
さが、成功の確率を高め、紆余曲折を経たのちに、目指したゴールへと導いてくれるのである。

彼らが、「自分を信じていた」「必ず成功するはずだと考えていた」と語るのは、考えるかぎりの対策を  
講じたためでもある。すなわち、Ⅲ、という状況だったからこそ、精神論が語れる  
のにちがいない。

その後半の部分だけを真に受けて、いくら「自分にはできる」「なにことも不可能はない」と呪文のよう  
に唱えても、けして同じ結果は得られない。やるべきことをやったかどうか、雲泥の差がある。「自信」とは、  
九十九パーセントの努力によって支えられた最後の「パーセント」でしかない。ここを取り違えてはいけな  
いだろう。

### 自信の発言は建前

少し整理してみよう。つまり、現代の若者の多くは、ゆとり社会で育ってきたために、子供の頃から楽  
観することを推奨されている。また、古来の日本文化にある「縁起」のために、悲観的なものの方を見方をしに  
くい傾向にある。大まかに言えば、この二つの影響で、物事を心配することを無意識に避けるようになって  
しまった。⑥ いわば、「悲観力不足」に陥っている。

たとえば、試合まえのスポーツ選手にインタビューをすると、決まったように「自分たちのプレイをする  
だけです」「優勝を狙います」と語る。けして悲観的な言葉は出ない。子供たちは、これを見ているから、  
そういった自信に満ちた言動が、勝つための手法だと勘違いするかもしれない。また、チームを率いる監督  
は、選手を鼓舞するために、「絶対に勝てる」と繰り返すかもしれない。

実際、監督は、チームのどこに弱点があるのか、どうなると危ないのか、ということを考え尽くして、そ  
れへの対策を考えているにちがいない。でなければ、そのチームは勝てるはずがない。

会社では、社長が社員たちに対して自信に満ちた発言をする。未来は明るい、と話す。危機感を持たせる  
ための説明もあるが、それを乗り越えていけるはずだ、と断言する。政治家も有権者に向かって、自分が進

める政策を実行すれば素晴らしい社会になる、と訴えている。それらを真に受けている社員や有権者が、どれくらいいるだろう。

「本音」と「建前」のようなダブル・スタンダードがあることを、大人なら理解していると思う。綺麗な言葉で明るい可能性を語るのには建前であり、本音では、解決しなければならぬ問題を沢山抱え、その方策に頭を痛めている。本音と建前を使い分けているのが、有能なリーダーといえるのかもしれない。問題は建前だけを真に受けてしまい、単純に樂觀してしまいう人たちである。

この単純さは、特に若者に顕著だ。何故なら、まだ現実の問題や失敗を見ていないから、言葉を本気にする傾向がある。歳を取るほど、言葉どおりにはいかなない事象をたびたび経験する。どんなに真剣に願い、一所懸命頑張っても、成功しないことは多い。問題は解決しないし、挑戦は失敗する。時期的に早いものとして、大学受験でそれを経験するかもしれない。

### 言葉だけの単純化

そういった挫折を積み重ねて初めて、思いどおりにはいかないものだ、願いは簡単に叶うものではない、ということが理解できる。失敗をすることによって、悲観のし方を覚える。ところが現代の子供たちは、その失敗もなかなかさせてもらえない。周りにいる大人たちが、成功を演出してしまおうし、たとえ失敗をしても、「たまたま運が悪かったただけだ」「一所懸命やったことに価値がある」と慰めようとする。けっして、「お前の才能では無理だった」とは言ってくれない。大人たちは、子供に悲観させないように努力する。これが、子供たちの悲観力を奪う原因になっているのは明らかだ。

「樂觀」にもいろいろあるが、最近特によく見かけるのは、やはり言葉だけの単純化を信じてしまう人である。たとえば、この頃多く出回っているのは、ハウツー本と呼ばれるもので、なにかの目的に対して、単純にこれをすれば実現する、と説く類のものである。「失敗しない方法」や「成功する七つの法則」みたいな本だ。本以外にも、ネット上の記事などで、非常に多いパターンである。こういったものは、そもそもヒント的な意味合いの情報であって、そこからなんらかの気づきを得られれば、役に立つことも少なくないだろう。しかし、「AをすればBになる」というほど単純な事象は、世の中には滅多にない。それこそ、数学の計算や、化学反応以外ではまずお目にかかることはない。

「こうすれば、ああなる」という単純化を真に受けてしまうのも、「樂觀」である。つまり、「こうしても、ああなるとはかぎらないのでは？」と疑うことをしないからだ。

このように、「悲観」の重要な役目の一つは、物事を疑うことである。鵜呑みにせず、疑問を持つこと。そうすることで、チェックが厳重になり、そのとおりにいかない場合を想定して、「覚悟」をしておくことができる。

### 悲観は客観的視点から

「悲観」は物事に対して慎重になり、用意周到な準備をする姿勢を生む。もちろん、そういった準備をしない「樂觀」に比べれば、余分な労力やコストがかかることになるから、問題なく物事が運ばば、ちよつとした損をすることになるだろう。

一方、「悲観」によって生まれるものは、成功を導くこと以外にも、成功確率を上げられたことによる精神的な安定がある。一般にこれを、「余裕」という。

あらゆるトラブルを想定して手を打つことで、余裕が生まれ、その余裕によって、さらに緻密な思考が可

能となる。これは、余裕が客観性や冷静さをもたらすためだ。余裕がないときには、人間は緊張し、一点に集中しがちである。すると、どうしても多くのものを見落としてしまう。悲観というのは、可能性のパトロールのような思考であり、頭の中であちらこちらを歩き、周辺を見回して、見落としがないかと探し回るような思考なのだ。

「上手くいかないかもしれない」と心配するだけの「悲観」では、明らかに不十分である。⑨ 上手くいかない原因として、どのような場合が考えられるか、という方向へ思考を向ける必要がある。そこまで考えて初めて、悲観の効果が表れる。

このように、周辺の可能性を考えて回る行為が、客観的な視点を育てる。いつも悲観して、悪くなる要因を探していると、どういったものを見逃しがちかも、だんだんわかってくる。それは、一方からしか見えないような、固定された視点に生じがちな死角に隠れている。

思いもよらない原因で失敗してしまう経験を何度か積むと、その原因を「思いもしなかった」のは何故なのか、ということに気づく。自分が立案した計画などでは、特に気づきにくかったことだ。重要な計画ならば、複数の人間がチェックをすることで、見逃しが避けられるが、これもつまりは視点の問題だった証拠である。客観的になれず、主観的な予測に頼っているから、エラーの想定が不十分になる。

### 悲観のおかげで今がある

「悲観」が、「きつと駄目だろう」という諦めになってしまうと、まったく意味がない。おそらく、悲観が嫌われるのは、この意味でのことではないだろうか。「きつと駄目だろう」と思うことは、たしかに悲観の基本であり、ここまでは正しい。そして、どうして駄目になるのか、駄目になった場合にどうするのか、あるいは、駄目でも良いと初めから心構えをしておくのか、といった対策を用意しておくことが大切なのである。

⑩ ⑪ とにかく、人間の社会は、悲観によって生み出された非常に多くの仕組みによって支えられている。本当に、悲観しておいて良かった、悲観のおかげで助かった、と感謝をしなければならぬほどである。

身近なところでは、警察があり、法律があることも、悲観から生まれたものだ。悪いことだとわかっているけれども、人間は悪いことをしてしまう、という悲劇が、ルールを作り、罰則を決め、これらを取り締まるシステムを築いた。日本の法律では、ルールを破った人間の命まで奪うことだってある。人を何人も殺した人間をどうしたら良いのか、と考えたから生まれたルールだ。そんな縁起でもないことを、きちんと考えたのである。縁起の悪いことばかり処理している職業だってある。避けて通れないものが、この世には存在する。であれば、「考えるだけで憂鬱になる」などと逃げている場合ではない。

社会のことは個人の自由になるものではないが、個人の行動は、多くは個人の思考に従っている。その人が楽観的に考えていれば、余計な心配をせず、潑刺と生きられるかもしれないが、予期せぬトラブルに巻き込まれ、せっかくの苦労が水の泡と消える結果になりやすい。自身をコントロールし、頭を働かせ、的確な悲観を巡らせた者は、トラブルを避けられる。

そもそも、努力をするのは、悲観から生じた対処だということがほとんどである。このままでは失敗するかもしれないという予測があるから、そうならないように励むのだ。

(森博嗣『悲観する力』より)

※(注) フェールセーフ 障害や誤作動が起きたときに安全な方向に動作すること。

警鐘を鳴らす 危険や悪いことを予測して、警告すること。

ダブル・スタンダード 対象によって考えや見方を使い分けること。

問一 文中の□ A・Bにあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

ア つまり      イ もちろん      ウ むしろ      エ だからこそ

問二 —— 線①「安心というのは、なかなか得難いものだといえる。」とありますが、このようにいえるのはなぜですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 安心を得るためには安全を意識した製品を作る技術が必要であるうえに、大勢の人々はいつも不安を抱いてばかりいるから。

イ 安心を得るためには反省することが必要であるとわかっているにもかかわらず、昔と比べて改善されたとはいえないから。

ウ 安心を得るための信頼を生むには安全を維持し続ける必要があるうえに、何か問題が起きると信頼は失われてしまうから。

エ 安心を得るための安全の維持には信頼性が必要であるにもかかわらず、人々は万が一のことを想定して信頼してくれないから。

問三 —— 線②「いかなれば『悲観力』のようなものに支えられているのが、現代社会だといっても過言ではない。」とありますが、「悲観力」とはどのようなものですか。それが書かれている部分を文中から二十字以内でぬき出し、その初めと終わりの四字を答えなさい。

問四 —— 線③「基本的に『悲観』することが、重大な過ちを繰り返さないための歯止めとなる」とありますが、どういうことですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 機械や人間は間違いを犯すものであると考え、心配しすぎなほど心配をすることによって失敗をくい止めることができるということ。

イ 歴史的にも人間は間違えてばかりなので、人間を信頼することはあきらめて機械にまかせてしまいうほうが心配をしなくてすむということ。

ウ 人間は同じ間違いを繰り返すことがあると認め、過去に発生した悪い事態を反省することによって進歩することができるということ。

エ 人間の間違いは国家の間違いにつながると気を引きしめて行動することで、社会にあふれている不安をなくすることができるということ。

問五 — 線④「この頃の傾向として、『日本はこんなに素晴らしい』という『樂觀』が多く観察されるようになってきた」とありますが、筆者は「日本」で「樂觀」が多く観察されるようになったのはなぜだと考えていますか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア どん底から這い上がったことで経済大国としての自信を取り戻すことができ、「悲観」するようなものにならなかったから。
- イ 平和な期間が長続したことによって日本は遅れているという意識が少なくなり、「悲観」することが減ったから。
- ウ 経済的に大国になったことよってプライドを持つようになり、外国を見習って「悲観」する必要がなくなったから。
- エ 先進国を経済的に追い越したことで明治維新のような大失敗が起きなくなり、「悲観」しなくてもすむようになったから。

問六 文中の□ I・IIにあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア I 樂觀 II 悲観   イ I 樂觀 II 樂觀
- ウ I 悲観 II 悲観   エ I 悲観 II 樂觀

問七 — 線⑤「不屈の精神を何に向けるのか、という点が大事なポイントではないだろうか。」とありますが、筆者は「不屈の精神」をどのようなことに向けるべきだと考えていますか。それが書かれている部分を解答らんの「こと。」につながるように文中から三十五字以上四十字以内でぬき出し、その初めと終わりの三字を答えなさい。

問八 文中の□ IIIにあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 百聞は一見に如かず
- イ 柵からばた餅
- ウ 人事を尽くして天命を待つ
- エ 清水の舞台から飛びおりる

問九 — 線⑥「いわば、『悲観力不足』に陥おちいっている。」とありますが、これについて次の1・2の問いに答えなさい。

1 「『悲観力不足』に陥」るとはどのような状態になることですか。解答らん「こと。」につながるように文中の言葉を使って、十五字以上二十字以内で答えなさい。

2 筆者は「現代の若者の多く」が『悲観力不足』に陥っているのはなぜだと考えていますか。その理由を二つ答えなさい。

問十 — 線⑦「本音と建前たてまえを使い分けている」とありますが、ここで言う「本音と建前を使い分け」とはどういうことですか。次のア・エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 自分の中では上手うまくいかないかもしれないとあきらめているのに、自信がないことを他者に気付かれないようにするために成功の可能性に満ちた発言をすること。

イ 自分の心の中では解決できると信じていながらも、子供や部下などに対しては油断をして失敗しないように危機感を持たせるような厳しい発言をすること。

ウ 自分の心の中では絶対に上手くできると信じているのに、部下や子供はげに励はげましてもらいたいと考えてあえて自信がないように思われる発言をすること。

エ 自分の中では解決しなければならぬ問題について必死に考えながらも、他者に対しては勇気づけたり励はげましたりするために明るく自信に満ちた発言をすること。

問十一 — 線⑧「最近特によく見かけるのは、やはり言葉だけの単純化を信じてしまう人である。」とありますが、「言葉だけの単純化を信じてしまう」とはどういうことですか。それを説明した次の文の□にあてはまる言葉を文中から二十字以上二十五字以内でぬき出し、その初めと終わりの四字を答えなさい。

□と信じてしまうこと。

問十二 ———— 線⑨ 「そこまで考えて初めて、悲観の効果が表れる。」とありますが、「悲観の効果」とはどのような効果ですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 物事に対して余分な労力やコストをかけて準備していなくても、問題が発生した時に失敗が起きないようにする効果。
- イ 物事の成功する確率を上げるとともに、上手く進まなかった時に余分な労力をかけなくても解決できるようにする効果。
- ウ 物事に対して慎重しんちょうになって綿密な準備をする態度をもたらすとともに、余裕が生まれてより細かい思考を可能とする効果。
- エ 物事の成功する確率が低くても、最初から上手くないとあきらめておくことで余分な緊張きんちやうをほぐして成功を導く効果。

問十三 ———— 線⑩ 「この意味でのこと」とありますが、「この意味でのこと」とは「悲観」がどのようなものになってしまおうということですか。それを説明した次の文の  にあてはまる言葉を文中から十字以内でぬき出して答えなさい。

悲観が  こと。

問十四 ———— 線⑪ 「悲観しておいて良かった、悲観のおかげで助かった、と感謝をしなければならないほどである。」とありますが、これについて次の1・2の問いに答えなさい。

1 このようにいえるのはなぜですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 悲観することは余計な心配をせずに自分の考え方に従って自由に生きることを可能にするから。
- イ 悲観することによって考え出された対策や仕組みによってトラブルを避けることができるから。
- ウ 悲観することで警察の取り締まりや法律にたよることなく問題を解決することができるから。
- エ 悲観することから生まれた職業につく人々が縁起えんぎの悪い仕事を全部代わりにしてくれるから。

2 「悲観しておいて良かった、悲観のおかげで助かった」の例としてあてはまらないものを次のア～オの中から二つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 災害は起こらないだろうと考え、避難訓練に参加しなかったことで時間をむだにせずすんだ。
- イ 病気になった時のことを心配して健康保険に入っていたので、入院した時に保険金が支払はらわれた。
- ウ 天気予報では晴れだと言っていたが、心配だったのでかさを持っていたら昼から雨が降った。
- エ 試験の前に「落ちる」という言葉を使わないようにしたおかげで不安な気持ちにならずにすんだ。
- オ 受験会場へ行くとき道に迷ってしまったが、三十分前に着くように出発していたので間に合った。



次に示すのは、この文章を読んだ四人の生徒が感想を話し合っている場面ですが、本文の感想としてふさわしくないと考えられるものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A―「身の回りのものも『悲観』によって安全が守られているという意見を読んでその通りだと思ったよ。もしかして横断歩道の信号機には『とまれ』を表す赤だけではなく、わざわざ『進め』を表す青も付いているのも筆者のいう『悲観』によっているのかなあ。」

イ 生徒B―「そうかもしれないね。だって赤だけしかなかったら、ランプが点灯していないときに『進め』なのか、電気が切れて故障しているのかわからなくて事故が起きてしまうかもしれないからね。青もあることで事故を防ぐことにつながっているはずだよ。」

ウ 生徒C―「私は『悲観』がトラブルを避けるために大事だという考え方に助けられた気がするよ。私自身とても心配性で何度も持ち物を確認したり、試験で何度も見直しをしようんだけど、失敗を避けるための行動だと思ったら自信がわいてきたよ。」

エ 生徒D―「その気持ち分かるなあ。私もすぐものごとを『悲観的』に考えて、うまくいかなかったらどうしようって考えこんでしまって何も手につかなくなってしまうたり、やめてしまうことがよくあるんだけど、それほど悪いことではないって知ることができて安心したよ。」

## 二 次の漢字と言葉に関する問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の——線部のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

- ① 気力をフルって最後まで走る。
- ② 「シキユウおいでください」と放送が入る。
- ③ ヨクシツのそうじをする。
- ④ 委員会に問題をテイキする。
- ⑤ 事故の損害をオギナう。

問二 次の①～⑤の——線部の漢字の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

- ① 天気が悪くて困る。
- ② 引き上げるには今が潮時だ。
- ③ 水玉の模様がきれいだ。
- ④ 尊い命を大切にする。
- ⑤ クラブ合宿の冊子をつくる。

問三 次の①～⑤の二つの熟語が対義語になるように、それぞれ□にあてはまる漢字一字を答えなさい。

- ① 部下——上□
- ② 生産——消□
- ③ 温暖——寒□
- ④ 不作——□作
- ⑤ 禁止——□可

問四 次の①～⑤の四字熟語の意味として最も適当なものを後のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

- ① 右往左往
- ② 一心不乱
- ③ 馬耳東風ばじとうふう
- ④ 天下太平
- ⑤ 二束三文

- ア うろたえ混乱して、あちこちと動きまわること。  
イ 人の意見や注意などを気にかげず、聞き流すこと。  
ウ たくさんあっても、安い値段にしかないこと。  
エ つらいことであっても、じつとしんぼうすること。  
オ 心を一つのことに向け、ほかのことは考えないこと。  
カ 世の中が治まって、平和であること。